

踏まれ踏まれても生き返る

NO.20 2025.3.17

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matcham@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」

地域自主活動グループのページでも閲覧できます。ほかのグループも見てください→ <http://ow.ly/nqgc50AoMDs>

いっそう激しくなった気候変動の中で 今年のニリンソウ月間が始まりました

ニリンソウ月間

2025年
3月15日～4月13日
(土) (日)

板橋区の花

「板橋区の花・ニリンソウ」は
東京都レッドデータブック2023
区部の絶滅危惧種に指定された野草です。
都立赤塚公園では、
大門地区に都内最大の群落地があるほか、
城址地区でもたくさん見られます。
また、冲山地区、徳丸が丘陵地区
の崖下でも各所に点在しています。

今年もニリンソウの花が咲く
季節になりました。
都内最大の自生地である
都立赤塚公園では
可憐な白い花々が、
訪れる人々を
別世界へ誘います。



板橋区関連事業

① 緑のガイドツアー・ニリンソウコース
日時：3月27日(木)
9:30～12:00
※荒天の場合は中止
場所：新高島駅 集合
→ 都立赤塚公園大門地区 他
→ 赤塚植物園 解散
定員：30人 (応募者多数の場合は抽選)
内容：緑のボランティアによるガイド
費用：100円

② 区の花・ニリンソウの展示
日時：3月24日(月)～4月4日(金)
場所：板橋区役所1階プロモーションスペース
内容：赤塚植物園で栽培したニリンソウの
鉢植えや紹介パネルの展示

主催 赤塚公園サービスセンター

03-3938-5715

後援 東京都板橋区

協力 赤塚公園友の会

公益財団法人 東京都公園協会
Tokyo Metropolitan Park Association

かつては毎年4月の第2週が満開だった都立赤塚公園大門地区のニリンソウ自生地でしたが、10年ほど前から温暖化の影響が表れて満開期が3月下旬になる年が出てきました。そこで、観察Dayを1日のみに定めるのではなくて、3月中旬からの1か月の月間にしてきたのですが、それでも年によっては当たり外れがあるものです。春先には暖かい日があったと思ったら寒くなるという日替わり天候はつきものですが、今年は特に寒暖の差が激しく、月間行事の担い手のみなさんも大変です。

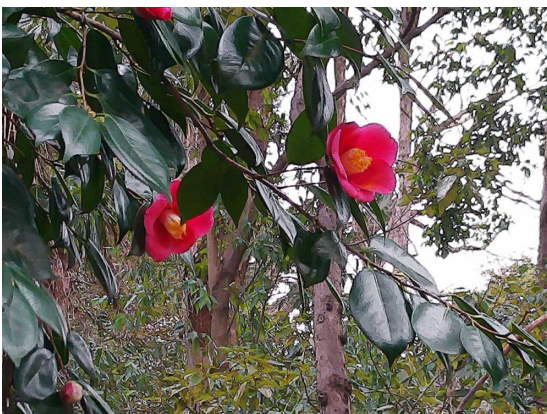
活動から引退したわたしは、今年は完全に手が離れてサービスセンターと友の会のみなさんが一生懸命に動いてくれています。3/15の月間初日、わたしは気楽にご挨拶に伺わせていただいただけでした。

左のポスター・チラシのPR物も現場で初めて見ましたが、気分転換・デザイン一新、なかなかよくできているじゃないですか。

ニリンソウの生育範囲は広がっている

月間の主人公であるニリンソウはまだ0.01分咲きでしたが、あちこちの展葉の様子を見ると、大門では生物多様性保全のために拡張した保護エリアへ、城址では郷土資料館前の崖線の裾野で、生育範囲を広げているようです。

ほかの植物に先がけて咲く**フラサバソウ**（下の右）がやっと盛りなので、ニリンソウはまだまだの状態。今は、**ヤブツバキ**（下の左）、林床では**ヒメカンスゲ**（中）が満開でした。



赤塚公園サービスセンターのロビーに展示していた「花だより」

1年間の植物紹介に増補

花の写真を見て、それが何かを考える

クイズ形式にまとめた冊子を手作業でつくりました

昨年6月から、その時々を観察できる花や実をA3の大きな写真で紹介してきました。月に3回写真を替えるので、結構忙しい半年でした。今年の1月でサービスセンターの事業としては終了してほっとしたのですが、春の花盛りの季節の紹介がないのは中途半端で気持ちが悪いものです。そこで、この前までサービスセンターのスタッフで在職中はいろいろお世話してくれた鷺見直子さんに制作に加わってもらい、良い写真も提供していただき、共同制作で年間の植物紹介冊子に仕立て上げました。



A5判、自分で印刷して94ページ。メインページでの紹介植物31種 解説ページでの紹介75種

花の形ではなく、生きているものの命を写し撮りたい！

37歳から53歳までの10数年間は職業カメラマンとして活動していましたが、もともと写真は下手でした。だから、画像に文字のコメントをつけて写真と文字を一体の作品として仕上げる「フォトライター」として売り出したのですが、他人と妥協しつつ如才なく仕事をこなしていればそれなりに生きて来られたのかもしれませんが、いろいろあって挫折。

その後は、アマチュアのボランティアカメラマンを続けてきたのですが、植物研究家が制作する植物図鑑のように、その形象を忠実に写し撮ることは苦手。下手でも、それが生きている姿を認めてあげる見方（観察法）と撮り方はしていきたいと思って40年近くやってきました。

この間、団体や公的機関発行のパンフレットなどにも写真を提供してきました。でも、どうしても植物の形を重視した説明的な写真になってしまうのでした。

今回の企画は、そうしたことにとらわれずに、植物の花や果実を観て、「いいな」「美しいな」「頑張っているな」と感じたその感性を大事にした写真で多くのページをまとめることに、初めて成功しました。

構成の仕方は、その美しさや面白さを感じ取ってもらうために、あえて写真ページには種名を記載せず、裏面を見るとやっとわかるようにしました。コメントも植物学的な解説ではなくて、植物と共存している生活者としての感覚を表に出すように心がけました。

感激！ 自腹を切って「他人に広めたい」という人が現れた！

高島平団地にお住いのSさんはパーキンソン病に襲われてからもう何年も不自由な体を動かして、保護活動の現場に顔を出してきました。最近は病状が進行してそれもままならなくなってきたようです。この写真集の試作版をお渡ししたところ、とても喜んでくれて「デイサービスの仲間などに広めたいので寄付を募りますから、もう一冊ください」との趣旨のリクエストがありました。

長い間活動をしてきたなかで、木村の活動を評価してくれる人はたくさんいても、活動をわざわざ自腹を切ってもでも広めようとする人は皆無でした。手作りのこの写真集を増刷するにはおびただしい手間暇とお金がかか

るので、気軽には「はい、そうしましょう」とはいかないのが難しいところなのですが、嬉しい話です。

また、「赤塚公園ニリンソウを守る会」の運営サポーター3年間では、ついに運営の担い手をつくるのが出来ませんでした。今回、鷺見さんが主体的運営者としてかかわってくれたのも初めてのことでした。

40年近く続けてきた活動を引退してから、ようやく他人の活動を自分のこととして広めようとする人、単なるお手伝いではなくて、自身の活動として物事を一緒に進めてくれる人が出てきて、これまでやってきたことが無駄ではなかったと実感出来ました。